

# 成人病（生活習慣病）*News Letter*

## 巻頭言

### 理事長挨拶

日本成人病（生活習慣病）学会理事長  
杏林大学医学部第一外科 教授 跡見 裕



第43回日本成人病（生活習慣病）学会は岩本俊彦東京医大教授が会長となり本年1月10、11日に開催されました。会長講演の“生活習慣病と認知症”を始め、特別講演、教育講演などが豊富に企画され、成人病・生活習慣病にかんする殆どが網羅された学会であり、参加者にきわめて好評でした。また同時に開催された市民公開講座にも多くに聴衆が参加され、大変盛況でした。

成人病・生活習慣病を学会名としているのは本学会だけです。マスコミ関係の参加も多く、本学会の内容は様々なメディアに取りあげられていますが、これは国民の関心の高さを反映しているのでしょうか。この期待にこたえるべく、私どもの学会が果たさねばならない課題は実に多く、また大きいものであります。

そこで本学会は今後の方針として、1)成人病・生活習慣病指導医（仮称）制度の創設 2)学会主導の臨床研究 3)啓発活動の充実 4)学会員数の増加 を柱としたいと考えています。1)の目的は、会員の専門的な能力を専門学術団体が認定することにより、一般市民が受診する際に必要としている情報を提供することが可能となります。これについては熊谷理事が担当し、具体策を検討することにしてありますが、本年度中に案が作成されることになっています。2)は利益相反等の問題もありますが、本学会が主導する研究により、例えば成人病予防の対策等を示すことが可能となるのではと考えます。臨床研究の対象や参加施設の設定、研究資金の問題等の課題がありますので、北川担当理事を中心に委員会を立ち上げており、今後検討をすすめることとしております。3)の啓発活動は本学会の重要な使命であります。まずホームページの充実を図ります。市民と学会を強く結びつける手段として、より内容の濃い

ものとせねばなりません。学会主導の市民公開講座は大変好評です。今後はさらに内容を一層充実させることも必要です。これは岩本安彦理事、堀理事、渡邊幹事が担当しております。学会の情報発信としてニュースレターがあり、青沼理事を責任者として定期的に発行されています。4)が重要であることは論をまちません。学会活動の原動力となるのは会員の皆様の参加と行動です。そのためには、まず学会員の数をより増やす努力が必要です。

今年度は寺本民生帝京大学教授が会長であり、学術集会はもとより学会活動の中心として指導力を発揮されております。本学会の一層の飛躍が期待される年であり、会員の皆様のさらなるご協力を切にお願いする次第です。

## 今号の主な内容

巻頭言 理事長挨拶

第43回日本成人病（生活習慣病）学会を終えて  
第43回会長賞

第44回日本成人病（生活習慣病）学会予告  
ワールドニュース

書評

新役員・新評議員名簿

入会のおすすめ、その他

編集後記

## 第43回日本成人病(生活習慣病)学会を終えて

会長 岩本 俊彦  
東京医科大学 老年病科

第43回日本成人病(生活習慣病)学会はさる1月10日・11日の両日に都市センターホテルにおいて開催され、予定されたプログラムはすべて滞りなく盛会裏に終えることができました。これもひとえに理事、学会評議員、会員の皆様方のご指導、ご協力の賜物と感謝を申し上げます。



会長挨拶

本学会を振り返りますと、メインテーマに掲げた「21世紀をすこやかに生きるために」の文言通り、各講演の演者、シンポジストの先生方には生活習慣病について各領域、各側面から有意義な情報を提供して戴き、情報交換の場として実り多き学会であったと思います。とりわけ生活習慣の欧米化によってもたらされたわが国の動脈硬化性疾患、代謝性疾患については内容が充実していたことです。具体的にはシンポジウムで「動脈硬化予防における生活習慣病の管理 日本人のエビデンス」で高血圧、糖尿病、脂質異常症、メタボリック症候群を取り上げ、パネルディスカッションでは「いわゆるメタボ健診の実際と問題点」として特定健診・特定保健指導に焦点を絞り、また、臓器・病態別には特別講演の「変貌する脳血管障害の背景と生活習慣病」、「末梢動脈疾患の診断、治療」、「高齢者糖尿病の治療」について日本のトップリーダーからお話を頂くことができました。

さらに、市民公開講座でもこれに関連して、「脳卒中は防げる！生活習慣の見直しから」と題し、日本脳卒中協会理事長の山口武則先生の基調講演とともに小林完吾氏の「脳卒中を乗り越えて」、三浦雄一郎氏の「運動のすすめ」で市民を啓発して戴きました。

一方、生活習慣は様々な分野で疾病に影響するため、もう一つのシンポジウムでは「生活習慣と癌 リスクとその管理」で食事、喫煙、飲酒、紫外線と癌との関係および「肺癌 最近の話題」を取り上げ、また、「歯周病と動脈硬化」、「生活習慣と骨密度」、「生活習慣病とスポーツ」、「現代社会におけるストレスと生活習慣病」のトピックスを各専門家からご講演戴きました。

このようなラインアップは本学会ならではのものではあったと自負しております。第43回日本成人病(生活習慣病)学会を終えるにあたり、本学会の使命がまさに生活習慣の見直し、生活習慣病の制圧を通して国民の健康や生活を守ることにあると再認識致しました。この点で、本学会の重要性を鑑み、本学会がエビデンスに基づく学際的な立場から国民に向けて生活習慣の重大さをもっともっとアピールする必要があるのではないかと痛感した次第です。



第43回会長  
岩本俊彦

日本脳卒中協会理事長  
山口武則氏

本学会理事長  
跡見 裕

小林完吾氏  
アナウンサー

三浦雄一郎氏  
プロスキーヤー  
クラーク記念高等学校長

市民公開講座  
演者を囲んで

## 【会 長 賞】

第43回日本成人病(生活習慣病)学会を無事に開催できたことを事務局一同心より感謝いたしております。

一般演題も、各セッションごとに診療科・専門領域の枠をこえた成人病(生活習慣病)学会ならではの有意義で活発な討論が行われ、盛会のうちに終了することができました。本学会員の皆様のご支援とご協力に、厚く御礼を申し上げます。

今回も昨年と同様に、一般演題の各セッションに一題の優秀演題を選定し会長賞と決定致しました。この場をお借りして会長賞を発表させていただきます。

第43回日本成人病(生活習慣病)学会 事務局 馬原 孝彦

### 第43回日本成人病(生活習慣病)学会 一般演題 会長賞

セッション名	演題名	演者 / 所属
消化器 1	内臓脂肪と大腸ポリープの関連に関する検討	磯村 好洋 東京大学 消化器内科
消化器 2	手術部位感染発症と糖尿病との関連性	長尾 玄 杏林大学 消化器・一般外科
動脈硬化 1	青壮年者における頸動脈硬化	荒川 直之 東邦大学医療センター佐倉病院臨床生理機能検査部
動脈硬化 2	動脈硬化性疾患の危険因子としてのアルコール性高トリグリセリド血症	草野 淳 帝京大学医学部 内科
循環器 1	冠攣縮性狭心症における睡眠時呼吸の血清ヘパリン静注前リポ蛋白リパーゼへの影響	高橋 真生 東邦大学医療センター佐倉病院 循環器センター
循環器 2	一般住民の心房細動有病率とその変遷の検討: 健診心電図 187 万件の所見に基づく分析	富沢 巧治 茨城県総合健診協会
糖尿病 1	耐糖能異常および糖尿病発症における食習慣の意義に関する検討	戸塚久美子 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院
糖尿病 2	高齢糖尿病患者における認知障害の調査	櫻井 博文 東京医科大学 老年病科
脳神経	大脳白質病変の成り立ちにおけるリポ蛋白(a)フェノタイプの関与	中井 利紀 悠遊健康村病院
運動・喫煙・その他	深部静脈血栓症予防における下肢フットポンプ、理学的運動の血流改善効果の比較検討	清水 一寛 東邦大学医療センター佐倉病院 内科
メタボリック シンドローム	左室重量とメタボリックシンドロームの検討	原田 真耶 東京女子医科大学病院糖尿病センター 内科
リポ蛋白	Lipoprotein (a) は頸動脈および脳動脈にて沈着初期より酸化されている	馬原 孝彦 東京医科大学 老年病科
マルチプルリスク 関連	高血圧合併高コレステロール血症患者の酸化ストレスに対するスタチンとARBの作用	櫃本 孝志 ひつもと内科循環器科医院
栄養・その他	食品群別摂取状況とその後の体重変化に関する縦断研究 - 食物ベースの栄養教育の検討 -	伊部 陽子 お茶の水女子大学人間文化創成科学研究院

## 第44回日本成人病（生活習慣病）学会開催のご案内

会 長：寺本 民生（帝京大学医学部内科学講座 主任教授）

会 期：平成22年1月9日（土）・10日（日）

会 場：都市センターホテル（東京）

テーマ：「生活習慣から高齢化社会を展望する」（仮題）

連絡先：帝京大学医学部内科学教室

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

TEL：03-5375-6126 FAX：03-5375-6126

\* 一般演題締切り予定：9月末日



### 赤池情報量規準 AIC - モデリング・予測・知識発見 -

赤池弘次・甘利俊一・北川源四郎・樺島祥介・下平英寿 著  
室田一雄・土谷 隆 編

本体価格 2,500 円 A5, 178 頁 (ISBN978-4-320-12190-4) 共立出版社

**現**在の自然科学に関する論文を正しく理解するためには、専門分野だけではなく統計学的手法に関する知識も必要不可欠である。筆者は数学に疎いために、医学論文で「ロジスティック回帰」などという統計学用語を目にしただけで無条件に信用してしまうのではあるが、本来はその解析の前提となったモデルの妥当性、信頼性を的確に検証しなければならないとされているそうである。我々が臨床研究から得られる多数のデータを基にして現象を整理するには、ある「視点」から解析データやパラメータを検討するのであるが、その「視点」は全く公正という訳ではなくて、実は、研究者がそれぞれのアイデアや知識、経験を通して極めて主観的に統計モデルを設定しているに他ならない。公正な結果の解釈のためにはそのモデルの善し悪しの検証が非常に重要なのである。題にある赤池情報量規準 (Akaike Information Criterion: AIC) は、このように主観的なモデルを簡明な数式で客観的に比較することを可能にし、データ（数字）の世界と実在の世界の架橋となる画期的な理論と評価されている指標である。この AIC の提唱者である赤池弘次博士はその業績から第 22 回京都賞を授与されたのであるが、本書はこの京都賞の受賞を記念して行われた講演会とシンポジウムを基にして構成されたものである。前半は赤池博士の自伝的文章で、AIC を思いついた際の手書きのメモなどの資料が掲載されており、赤池博士の着想の過程の一端を垣間見ることができる。赤池博士は日本海軍の戦闘機乗りの叔父の影響で海軍兵学校に進学した。そこでは航空力学や熱力学を、現実

の魚雷やエンジンなどに合理的に対応させる非常に実践的な講義を経験したという。その後、東京大学を経て統計学者の道に進むことになるのであるが、偶然に工業の現場との接点が生じた。当時、本邦の主要な産業であった生糸の生産管理工程に関わることになったのである。赤池博士は、繭から取れる糸の切れ目の出現分布を観察し、1本の繊維長の統計学的分布データを求め、これを統計的管理として現場に導入することで統計的繰系管理に成功した。このことは、観察結果を既存のモデルに強引に fitting する旧来の統計手法から、「観察からモデルへ」の合理的思考に変わる、文字通りの「糸口」となったのである。その後、自動車サスペンションの振動や波の動きと船の動揺の解析、セメント炉の最適制御などをモチーフとして、現実の問題の解決の中から本質的問題を見出し、その結果を一般化することによって、汎用的統計的方法を開発していくことになる。赤池博士のこのような研究過程は、さまざまな症例のデータをフィードバックしながら日々の診療を行う臨床医との共通点を感じ興味深いとともに、科学としての臨床医学を学ぶ者にとっては非常に勇気付けられるものでもある。AIC は、過去の経験に固執することなく、より良い理論（モデル）を模索し、実際に役立つ本質を抽出しつづける姿勢が重要ということを示してくれているのだろうか。統計学は冷徹な数式の世界と考えていたが、実は哲学と分離、融合を繰り返した学問であることを初めて知った。

筑波大学 救急集中治療部 河野 了

## 寄稿

## 第43回日本成人病(生活習慣病)学会参加記

お茶の水女子大学大学院生活習慣病医科学研究室  
戸塚久美子

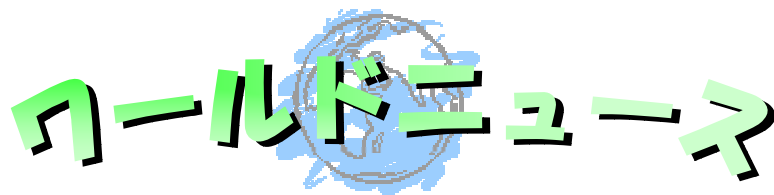
**第**43回日本成人病(生活習慣病)学会は、「21世紀をすこやかに生きるために」というメインテーマにふさわしく、生活習慣病全般の予防・治療について、有意義な発表と活発な議論が行われました。たとえば、シンポジウム2では「動脈硬化予防における生活習慣病の管理 - 日本人のエビデンス」と題し、動脈硬化予防策の変遷とこれからの展望について、「高血圧」「糖尿病」「脂質異常症」「メタボリック症候群」のそれぞれの専門の先生から、最新のお話があり、大変参考になりました。中でも興味深かったのが岩本安彦先生の、2型糖尿病患者における動脈硬化の進展予防には、血糖コントロールはもちろん、血圧・脂質等の要素も総合的にコントロールしていくことが動脈硬化進展予防に重要であるというお話でした。

また「糖尿病」のセッションでは、「耐糖能異常および糖尿病発症における食習慣の意義に関する検討」を発表させていただき、大変貴重なご意見を頂くと共に、その他の様々な視点・手法から糖尿病を研究されている発表を聞かせていただき大変勉強になりました。また、「栄養・その他」のセッションでは、病

院における栄養管理の実際、問題点や教育効果等をよく知ることができました。たとえば栄養指導室を診察室の隣に移したところ、栄養指導受診率の改善、診察待ち時間の有効利用、患者満足度・積極性の向上などがみられた上、医療スタッフ間の情報共有にも貢献した、など臨床現場にすぐ生かせる内容もあり印象に残りました。

本学会に参加したことで、今後の研究に生かせる新たな知見やアイデアを数多く得ることができました。特に大学院生を含む学生は無料ということで、本研究室からも学部学生を含めて多くの者が貴重な体験をさせていただきました。また私事ではありますが、この度会長賞という名誉ある賞をいただき大変感謝しております。生活習慣病に関わる科学的エビデンスの追求に邁進する決意を新たにしました。今後とも、管理栄養士という立場から、食習慣・生活習慣を切り口にしたエビデンスに基づいた生活習慣病予防・対策を研究・実施していきたいと思っております。

会長の岩本先生には、貴重な機会をお与え頂いたことにこの場をお借りして感謝申し上げます。



## HbA1c の国際標準化

東京女子医科大学中央検査部・糖尿病センター  
佐藤麻子

**H**bA1cは糖尿病の診断・治療に欠かせない検査である。しかし、その値は、日本で使われているJDS値、米国などで用いられているNGSP値などがあり、互換性がないことが指摘されている。これはHbA1cとしての測定対象物質が明確に定義されていないことによって生じている。

2007年6月、米国糖尿病学会、ヨーロッパ糖尿病学会、国際臨床化学連合(IFCC)と国際糖尿病連合はHbA1c測定の国際標準化に関するコンセンサス・ステートメントを発表した。HbA1cの測定系と測定値を国際標準化し、IFCC法を基準測定法として標準化するという内容である。

IFCC値とは、唯一ヘモグロビン鎖N末端パリンが糖化された1-フルクトシルヘモグロビンをHbA1cとして化学量論的裏付けをもって標準化したものである。単位はmmol/molで表す。IFCC値とは算出法も単位も異なる日本のJDS値との整合性が検討され、国際基準に沿うようにIFCC値を基準とした測定法を日本もいずれは取り入れることになる。

今まで親しまれてきた%表示のJDS値は捨てがたく、移行期には混乱が避けられないような状況である。日本糖尿病学会の「糖尿病関連検査の標準化に関する委員会」は、当面、検査値の表記にはIFCC値とJDS値を併記することとした。機械や試薬メーカーに対する情報の徹底、治療目標値の設定など、検討する課題は多い。現在、このHbA1cの国際標準化を2011年までに進める方針である。

IFCC値と現在使われている標準化物質JCLLS CRM004a (Lot 3)のJDS値から得られた関係式と、JDS値からIFCC値を求める関係式は下記ようになる。

$$JDS(\%) = 0.0963 \times IFCC \text{ 値}(\text{mmol/mol}) + 1.62$$

$$IFCC(\text{mmol/mol}) = 10.39 \times JDS \text{ 値}(\%) - 16.8$$

注：JDS: Japan diabetes society

IFCC: International federation of clinical chemistry and laboratory medicine

## 理事会・評議員会・総会報告

次期会長・副会長選出あたりに下記候補を推薦したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

平成20年度学会運営状況・活動について、幹事より報告がなされた。

第44回日本成人病（生活習慣病）学会会長  
寺本 民生：帝京大学医学部内科 教授  
同 副会長  
名川 弘一：東京大学腫瘍外科 教授

平成20年度会計報告が幹事よりなされ、監事より監査が適正であるとの報告がなされた。

平成21年度予算案の説明が幹事よりなされた。

理事長より、下記新理事・新監事・新評議員候補者を理事・監事・評議員として選出したい旨提案がなされ、理事会・評議員会・総会にて承認された。

### 新理事

青沼 和隆：筑波大学大学院人間総合科学研究科病態制御医学循環器内科教授  
井上 博：富山大学医学部第二内科教授  
富野康日己：順天堂大学医学部腎・高血圧内科教室教授  
永井 良三：東京大学大学院医学系研究科内科学専攻循環器内科教授

### 新監事

山口 巖：住吉クリニック病院院長

### 新評議員

井上 晃男：佐賀大学医学部循環器内科准教授	江口 研二：帝京大学医学部内科教授
大庭 建三：日本医科大学付属病院老人科教授	勝村 俊仁：東京医科大学健康増進スポーツ医学講座主任教授
河田 純男：山形大学副学長	木下 誠：帝京大学医学部内科教授
國土 典宏：東京大学医学部肝胆膵外科教授	小室 一成：千葉大学大学院医学研究院循環器病態医科学教授
志賀 剛：東京女子医科大学循環器内科准教授	代田 常道：東京医科大学病院健診予防医学センター教授
瀬戸 泰之：東京大学大学院医学系研究科消化管外科学教授	代田 浩之：順天堂大学医学部循環器内科教授
谷 樹昌：駿河台日本大学病院循環器科科長代行	塚本 和久：東京大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科講師
永原 章仁：順天堂大学医学部消化器内科准教授	萩原 誠久：東京女子医科大学循環器内科学講座主任教授
橋本 悦子：東京女子医科大学消化器内科教授	水野 杏一：日本医科大学内科学講座主任教授
三ツ林裕巳：日本歯科大学生命歯学部内科学講座准教授	山科 章：東京医科大学第二内科主任教授
渡辺 毅：福島県立医科大学医学部内科学第三講座教授	

資格制度委員会創設について跡見理事長より説明がされ、委員会創設の提案がなされた。委員長に熊谷 一秀先生（昭和大学豊洲病院外科）が任命された。

本学会が主導する研究により、一般市民に生活習慣について指針を与える。跡見理事長より、これについての委員会設立の提案がなされた。委員長に北川 泰久先生（東海大学八王子病院）が任命された。（企画委員会）

## 委員会報告

### 【ホームページ委員会】

ホームページの改善案を提案する。  
 ニュースレターを掲載する。  
 成人病（生活習慣病）Q&Aの項目を作る。  
 多くの学会のホームページとリンクする。

### 【広報委員会】

2009年の第1回同委員会が1月12日行われた。4月発行予定のニュースレターVol.8(1)の編集が中心であった。次回より広報委員長が青沼 和隆氏（筑波大学循環器内科）に替わることになった。次回より北山 丈二氏（東京大学腫瘍外科）が広報委員会に加わる事になった。

## 入会のお勧め

本学会は成人病・生活習慣病を対象とした学術団体です。会員数は現在約1,200名で、医師以外にも保健、栄養、スポーツ、検診関係の方々が多く参加し、それぞれの場で活躍しています。今後「指導医」など資格制度を設ける計画も進行中です。本会の趣旨に賛同して頂ける方の多数の入会をお願いします。

なお、申し込み用紙は事務局に直接連絡して取り寄せるか、ホームページの申し込み用紙をダウンロードしてお使いください。また、ホームページの「入会のご案内」より直接お申し込みも出来ますのでご利用ください。

ホームページから入会のお申し込みをされる場合、年会費のご入金を確認出来た時点で入会となります。（会員番号と手続き完了のお知らせメールを送信致します。）

ご入金の確認が出来ない場合は正式入会にはなりませんので、ご注意ください。

一般会員年会費：3,000円 / 評議員年会費：6,000円

入会金：なし

お問い合わせ・資料のご請求

## 日本成人病（生活習慣病）学会

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷3-40-3  
 (編集部) 株式会社 文栄社 内  
 TEL：03-3814-8541 FAX：03-3816-0415  
 E-mail：jimukyoku@j-seijinbyou.gr.jp  
 URL：http://www.j-seijinbyou.gr.jp

## \*事務局からのお願い\*

4月に入り移動や引越し等が多くなる季節です。  
 勤務先変更・住所変更・所属、役職等変更事項のある方は、  
 必ず事務局へメール・FAX・葉書でご連絡下さい。  
 (電話での変更受け付けは出来ませんのでご注意下さい。)

## 編集後記

法改正により昨年度から始まった特定健康診査について、1月に開かれた本学会においても関連の健診センターの様々な工夫をこらした取り組み状況が報告された。受診者への効果やメタボリック症候群克服への対応策が短期間のうちに現われるプロジェクトでないことは承知の上とはいえ新しい制度への切替えが当初の計画を大幅に下回ることとなり、その影響ががん検診の受診者の減少にまで及んでいる。

健診の究極の目的は疾病の予防・早期発見にある。新制度の導入による現場の混乱、特に受診の機会がなくなったり、社会保険加入者への限定が要因になり、前年度に比較して、がん受診率が5%（肺）～10%（胃）ほど落ち込んだ。前年度の要精検者に対する実際の精検受診率が80%であった（茨城県総合健診協会）胃の検診で、要精検者に対する実精検受診率（81.4%）が類似している日本対がん協会の平成18年度のデータを例にとると、精検により新たに検出されたがんの71.6%が早期がんであった。このことからがん検診受診率の維持・向上が確保される対策を急ぐ必要があるように思われる。

山口 巖

成人病（生活習慣病）ニュースレター  
 Vol.8- 1 2009年5月1日発行

発行人：跡見 裕  
 委員会顧問：増田善昭（千葉大学）  
 責任編集委員：山口 巖（筑波大学）  
 編集委員：馬原孝彦（東京医科大学）  
 河野 了（筑波大学）  
 木下 誠（帝京大学）  
 北川泰久（東海大学八王子病院）  
 佐藤麻子（東京女子医科大学）  
 中川敬一（東京シーサイドクリニック）  
 横山 登（昭和大学豊洲病院）  
 吉田晴彦（東京大学）

印刷所：株式会社 文栄社

本誌広告申し込み先：日本成人病（生活習慣病）学会事務局  
 (株)文栄社 までお問合せください。